

**留学先国名** : アメリカ

**留学先学校名** : Palmar College

**留学期間** : 平成 27 年 8 月 10 日 ~ 平成 28 年 7 月 10 日

私は、ダンス専攻ということで一学期目は ESL と国際文化を学ぶ Multi Culture Study というクラス以外は全てダンスの授業を受けていました。その中でも一番印象深いクラスが Choreography という振り付けのクラスです。このクラスでは、クラスメイト全員で秋に大学で行われるコンサートに出す作品を作りました。私はダンス歴が長く振付の経験もあった為、自分が一つの作品を監督として作り上げました。このクラスのおかげで、一人も友達がなくて他の留学生よりも遥かに英語力が劣っていた私ですが、学期末にはたくさんの友達ができていました。英語も少しずつ上達し、相手の言っていることが理解できるようになり、また自分の言いたいことも少しずつ表現できるようになっていました。さらに、一つの作品を作る過程で、専門的な知識を得ることができました。また、授業や授業外で、スタジオが開放されている時間に、沢山の人たちに会い、あるダンスチームの一員となったり、現地のダンスバトルに参加したり、現地で一番大きなダンススタジオのチームのオーディションに合格し、全レッスン無償で受講する機会を頂いたり、大学外でも沢山のダンスができる機会がどんどん広がりました。朝、昼は大学で授業を受け、夜はスタジオでレッスンを受け、深夜はチームの練習という留学生では普通経験できないようなとても充実した生活を送っていました。

しかし、生活面では沢山の想像以上の苦労がありました。初めての土地なので、もちろん何もかもわからないことばかりで、バスの乗り方や横断歩道の渡り方さえも日本とは違い、何をすることも緊張感があり、恐怖感までもありました。今まで自分が日本でしていた当たり前の行動さえもできない自分が情けなく、嫌いになりました。ホストファミリーとの関係もうまくいかず、ホストファミリーを三回変えました。最後のホストファミリーの家に到着し、ホストマザーが出迎えて下さり、とても綺麗に整頓された私の部屋を見せて下さった時、それまで衛生面が良くない家やスペースが全く十分でない部屋に住んでいた私は、安心感と感謝の気持ちで涙が止まりませんでした。家がない間、沢山の人たちに助けられ、人への感謝の気持ち、自分の事を気にかけてくれる人がいること、帰る場所があることへのありがたさを知ることができました。

この留学で、語学はもちろんのこと、現地に行かずに理解できない言葉のニュアンス、日本人はあまり気にしない宗教的なことや言葉、人種差別のこと、文化の違い、生活が違うことによる感覚の違い、今まで、自分の中で当たり前だったことが、世間では当たり前ではないことに気付き、人と意見がぶつかった時は、否定せずに理解しようとするようになり、人と向き合えるようになりました。そして、未知の土地での一人からの生活の中で助けて下さった人たちへの感謝の気持ち、人と人との繋がり大切さを学ぶことができました。私がこの留学の中で特に得たものは、勉学よりも一人の人間としての成長だと考えています。